

# 私たちのジューウカツ

安城特別  
支援学校の1年

一般企業への就職を目指し奮闘中の安城特別支援学校(安城市)高等部の生徒たち。事実上の「採用試験」ともいえる企業実習に挑んでいる。「これまで頑張ってきた全てを出し切りたい」と張り切る生徒を、企業の担当者は「この生徒は本当にうちで働きたいのか」「職場になじんで頑張り続けることができるのか」と温かくも厳しい目で見守っている。(四方さつき)

## 8月・いざ、企業実習①

「げいちゃん、頑張ってるね」と元気に応じる。学校にいる時よりも少しこわばっているように見えた目元が少し和らいだ。

アイシンウェルスマイルは、アイシンググループの特別会社として昨年十月に設立。障害者を雇用し、適切な就業環境の実現を目指す。技術本館の清掃、ごみ回収などを業務としている。鈴木さんは二年次に続き、七月二十七日からの二週間、四人の高等部三年生とともに実習に挑んだ。アイシンウェルスマイル・オフィスサポート部担当の小栗幸治さんは「今回は、一年たつてどれだけ成長しているのかを中心に見せてもらっています」と話す。



実習担当者と言葉を交わす鈴木さん(右)と刈谷市のアイシン精機で

「僕はこっちでモップを掛けます」「じゃあ私は掃除機を担当します」。鈴木さんらは声を掛け合い、役割を分担し、食堂内で黙々と作業を続けた。三十分間で作業を終えると、次はトイレや階段に移る。背の高い鈴木さんが窓ぎきを率先して担当するなど、自然に協力、分担する姿勢がみられた。

研修七日目となる四日は午前中に館内のあちこちの廊下や階段、トイレなどを清掃し、昼休憩。午後は社員食堂から始まった。時間は三十分間。自分たちで考え、動けるようにと、指導員たちは基本的には指示を出さない。

緊張の日々を送る後輩たちを、先輩社員も見守る。アイシンウェルスマイルにはこの春、安城特別支援学校を卒業した女性社員(心)がいる。女性は「啓太君は中学から一緒だけど、そのころから掃除がすごく丁寧だった。一緒に働けるとうれい。頑張れ！」とエールを送った。

# 事実上の採用試験 緊張

「僕はこっちでモップを掛けます」「じゃあ私は掃除機を担当します」。鈴木さんらは声を掛け合い、役割を分担し、食堂内で黙々と作業を続けた。三十分間で作業を終えると、次はトイレや階段に移る。背の高い鈴木さんが窓ぎきを率先して担当するなど、自然に協力、分担する姿勢がみられた。指導員は鈴木さんたちを愛称で呼ぶ。三年次の実習は事実上の採用試験。「失敗しちゃいけないとがちがちになって、普段の姿をなかなか見せてくれない生徒もいる」と池田さん。緊張をほぐすとともに「入社すれば共に働く仲間。本来の姿をつかみ、入社後のミスマッチをなくしたい」との思いがあるのだという。